被災後の子どもの心とそのケアからの実証

エビデンスのある心のケアを学ぶ

シンポジウム＆ワークショップ

子どもの心の診療の第一線に立つ医師と研究者が、東日本大震災の被災地支援を通して得た医学的・科学的な知見と、効果が実証された子どもの心のケアの手法を発表する。これからも続く被災地支援と、来るべき次の災害の備えのために。

平成 26 年
12 月 20 日（土） 9:30～16:40（開場 9:00）
21 日（日） 9:30～16:30（開場 9:00）

会場：AP 東京八重洲通り 12F 会議室 F+G
定員：各日 80 名　　参加費：無料　　※要申込み

お申込み・お問合せ
氏名、ご所属、ご職名、ご希望の日程（20 日午前・午後、21 日午前・午後、複数選択可）を明記の上、下記へお送りください。

Email　seiikukokoro2014@yahoo.co.jp
Fax　03-3416-0610
国立成育医療研究センターこころの診療部　担当：桑澤

会場案内図

AP 東京八重洲通り
JR 東京駅八重洲中央口より徒歩 6 分
東京メトロ日本橋駅より徒歩 5 分
都営浅草線宝町駅より徒歩 4 分

厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
「被災後の子どものこころの支援に関する研究」
研究代表者　五十嵐隆　　（独）国立成育医療研究センター

Day1:　12 月 20 日（土）　受付開始 9:00

9:30　あいさつ: 五十嵐隆　国立成育医療研究センター総長

9:40～12:10

オープニング・シンポジウム
被災後の子どもの心とそのケア～3 年半の変遷～

座長：杉山登志郎・亀岡智美

シンポジスト：小平雅基、福地成、本間博影、八木淳子

東日本大震災から3年半以上経ち、被災地外で震災は徐々に遠い存在になりつつあるが、被災地では時が止まっているかのようである。こころの"時"だけではなく、現実にも仮設住宅入居者の減少はあまり進まず、復興の遅れは顕著であり、子どもにとって貴重な時間が「仮」のままで過ごされている。被災後の子どもの心のケアに関する研究を通じて明らかになったこの 3 年半を、現地の研究者と外部から支援に入った研究者で総括する。

ミニ・ワークショップ
被災後の子どもの心のケア（予防と治療）

被災後の混乱の中では「心のケア」と言いつつ、かえって心が乱される経験が少なくない。本研究班では、理論的に効果が期待できるケアに関して、「どのような子どもに・どのような形で・どのような支援をするのか」を明確にし、支援の効果を判定してきた。その結果を基に、対象の異なる支援法の概略をミニ・ワークショップとして紹介する。

13:10～14:30
予防的介入を学ぶ
呼吸の改善
本間生夫

呼吸生理の分野で効果が証明されてきた呼吸筋ストレッチ法や、呼吸パターンを改善する生け花を、副作用が少ないポピュレーションアプローチとして小学生対象に行うと同時に、指導者なしでもできる音楽体操を開発してきた。その理論的裏付けや方法を学ぶ。

14:40～16:00
国際的な治療法を学ぶ
TF-CBT
亀岡智美

子どもの PTSD の治療法として国際的に効果が証明されている、トラウマに焦点化した認知行動療法（TF-CBT）を日本に導入した。その考え方と概略を学ぶ。

16:10～16:40
支援者の傷つきを知る
支援者支援
奥山眞紀子

被災地では支援者も被災者であり、支援者の疲れは著明なものである。災害時に支援者支援は欠かせない。「代理受傷」「バーンアウト」「うつ」の視点から支援者自身が心の疲れを把握し、回復を目指す方法を学ぶことを目的とする。

Day2:　12 月 21 日（日）　受付開始 9:00

9:30～10:50

ワークショップ
子どもの遊びを支援する

座長：福地成

発表：菊池信太郎、西田佳史、本村陽一

子どもにとって身体を動かすことは現在の心身の健康にも、大人に向かっての発達としても重要であるにもかかわらず、被災後は様々な要因で子どもの活動が制限される。子どもの活動に対する支援ではどのような運動要素を考えるべきか、新しい運動器具を開発できるかなど、運動支援に関して学ぶ。

11:00～12:00

コミュニケーション
被災地での実践と研究の協働

座長：奥山眞紀子
　疫学研究　藤原武男
　介入研究　立花良之

被災地での子どもの心のケアでは、効果的で副作用が少ない方法の提示が求められているが、そのためには、実践と研究の協働が必要である。被災地での疫学研究や介入研究の方法論と、その実践方法および困難さに関して学ぶ。

13:00～16:30

総括シンポジウム
地域の文化に合った福祉・保健・教育との連携構築

座長：本間博影、八木淳子

パネラー：植田紀美子、杉山登志郎、中板育美、舟橋敬一、山本恒雄

被災後の子どもの心のケアでは、多くの人材がその能力を活かして連携していくことが欠かせない。また、ケアシステムの構築を考えるとき、その土地の社会資源と外部からの支援の連携で乗り越えた危機対応システムから新しい通常システムを構築するなど、連携に関して多くの課題がある。いずれのシステムも現地の文化を尊重したものでなければ豊かな新しいケアシステムを構築することは困難である。そこで、最後のシンポジウムとして、「文化」と「連携」をキーワードに、今後の被災後の子どもの心のケアシステム構築の総論を語り合う。

研究代表者

五十嵐隆
国立成育医療研究センター
理事長・総長

***

研究分担者

植田紀美子
大阪府立母子保健総合医療センター
臨床研究支援室／遺伝診療科

奥山眞紀子
国立成育医療研究センター
こころの診療部

亀岡智美
兵庫県こころのケアセンター

菊池信太郎
菊池記念こども保健医学研究所、菊池医院

小平雅基
母子愛育会総合母子保健センター　愛育病院

杉山登志郎
浜松医科大学　児童青年期精神医学講座

立花良之
国立成育医療研究センター
こころの診療部　乳幼児メンタルヘルス診療科

中板育美
日本看護協会

西田佳史
産業技術総合研究所
デジタルヒューマン工学研究センター

福地成
みやぎ心のケアセンター

藤原武男
国立成育医療研究センター
研究所社会医学研究部

舟橋敬一
埼玉県立小児医療センター　精神科

本間生夫
東京有明医療大学

本間博影
宮城県子ども総合センター

本村陽一
産業総合研究所　サービス工学研究センター

八木淳子
岩手医科大学　医学部　神経精神科学講座

山本恒雄
母子愛育会　日本子ども家庭総合研究所

（五十音順）